

保護者の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、大変ご心配のこととお察しいたします。

本町におきましては昨年来、児童生徒にとって学校生活は成長に欠かせない場であると認識して、保護者の皆様方のご理解とご協力の下、教職員は取り得る対策を講じながら学校運営を継続してきています。

この先においても、その状況を可能な限り継続してまいりたいと考えております。

そこで新学期を迎えるにあたり、皆様方にお知らせしたいことを次のとおり取りまとめました。引き続き、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

町長・教育長からのメッセージ

「子どもの命が大切だから学校休業を」「クラスター感染が起きてからでは遅い」とお考えの保護者の方もお見えだとは推察しますが、私共は、学校教育が子どもの成長の一翼を担っていると自負しており、新型コロナウイルス感染の危険性もさることながら、それと同様、もしくはそれ以上に、学校休業や新生活様式が、子ども達の「心」に及ぼす影響を非常に憂慮しています。

新型コロナウイルス感染症の知見の蓄積やワクチン接種の進ちょく、治療薬の開発等が進むまで、私たちの暮らしには、常に感染リスクと隣り合わせだと覚悟しなければなりません。

児童生徒が毎日、元気に登校できるよう、学校運営に関わる教職員、行政、事業者等が一丸となって、最大限の配慮の上、工夫と改善を重ねながら対応してまいります。

ご家庭においてもいっそうの感染防止対策の徹底にご協力くださるようお願いいたします。

今、感染拡大中の新型コロナウイルスの「デルタ株」は、従来型とは別物です

ウイルスは、ウイルス自身では増殖できず常に宿主（様々な生き物）を探しており、抗体ができ防衛されないように常に進化を続けています。

よく食中毒を起こす「ノロウイルス」は、進化スピードが速くウイルス量も多いことから、一度感染して抗体ができたとしても、新しいカタチのウイルスに感染してしまうと言われています。

新型コロナウイルスの新旧（変異前後）の比較の目安は以下のとおりです。

	感染力(1人が)	ウイルス量	入院	重症化(ICU)
従来型	1.4~3.5人			
デルタ株	5~9人	元祖の1,200倍	元祖の2.2倍	元祖の3.8倍

2週間に1回位の割合で変異しているとか…

学校内における予防策は？ —学校運営に関わる者で再確認して取り組みます—

ウイルスが変異しても、私たちができる感染予防策の内容は従来型と変わらず、大切なことは、その継続と「徹底」です。学校における重点的な取り組みは次のとおりです。

- 不織布マスク（もしくは同機能製品）利用の推奨や教室内等の換気、手洗い手指消毒の徹底。
- 授業における感染リスク（大きな発声や身体的接触、対面を避ける）の低減を図る。
- 児童・生徒の健康観察に努め、体調不良者（家族も含む）には、積極的に登校停止を要請する。
- 教職員は感染させないようこれまで以上に、自らの行動及び家庭内感染防止に努める。

デルタ株対策の筆頭は
常時換気の徹底
です。

■■■■■■ 感染拡大抑止に向けて ■■■■■■

文部科学省が令和3年4月から7月までの間に把握した、児童生徒の新型コロナウイルス感染経路のうち、家庭内による割合は56.9%で、学校内による感染は6.4%です。また、感染経路不明の場合、家人の誰かが意識することなく家庭内にウイルスを持ち込んだ事例があるだろうと推測されています。コロナウイルスは、人や動物等を介して拡がることから、ご家庭において一層感染予防に取り組んでいただくことは、学業を一日も長く継続する上で、大きな力となることは確かです。

そこでご家庭において、家族全員で次の予防策に取り組んでくださるようお願いいたします。

- 帰宅したらすぐに、調理前やトイレのあとも、手洗い（手指消毒）を行う。特に、仕事や学業で都市部へ行く、移動距離が長く人混みを避けられない方は、その徹底を。
- 食事の時は可能な限り斜め向かいに座り、料理は個別盛に心がける。
- 部屋の換気に心がけ、口を付ける物の共有や回し飲みは避ける。
- 外出の際は人混みを避け、携帯用の消毒液を携行して、カートや手すり、ボタン等に触れた際はこまめに消毒をする。特に低年齢のお子さんの手指消毒は、大人が手伝い念入りに。
- 同居のご家族等が濃厚接触者に特定された場合は、検査で陰性が判明するまでは、児童生徒を登校させないでください。
- 発熱などの風邪症状があり、すぐに治まった場合（例：夜に発熱し、翌朝解熱）でも、念のため1日程度、登校を控え医療機関などを受診することをご検討ください。
- 家庭内に体調不良の方が出た時は、可能な限り衣食住で距離をおき、早めに診療をお勧めします。なお、児童生徒の登校は控え、速やかに学校へ連絡くださるようお願いいたします。



新型コロナワクチンに関する情報です、ワクチン接種をご検討ください

医療・福祉業務に関わる方や重症化リスクが高い、高齢者や基礎疾患をお持ちの方を優先的にワクチン接種したため、若年・中年層の皆様方にはお待ちいただくこととなり、誠に申し訳ありませんでした。そのワクチン接種の実績から、次のようなおおよその傾向が分かりつつあります。

- 新規陽性者（ワクチン未接種者と接種者）
ワクチン未接種者数を「1」とした時の比率

	未接種	1回接種済	2回接種済
65歳以下	1	0.36	0.11
65歳以上	1	0.31	0.07

(8月10日から8月12日：厚労省資料を参考に作成)

- 愛知県発表の感染者状況(8月23日現在)

	第3波 10/21~3/30		第4波 3/31~7/20		第5波 7/21~8/25	
	感染者数	割合	感染者数	割合	感染者数	割合
70歳未満	17,525	81.5	22,164	88.7	19,938	97.5
70歳以上	3,970	18.5	2,812	11.3	519	2.5
計	21,495		24,976		20,457	

新型コロナワクチンは、副反応リスクは懸念される一方で、感染時の重症化抑止効果は認められており、ある程度の感染予防効果も確認されつつあります。

今後も町としては、ワクチンと接種機会の確保を図り、ワクチン接種を促進します。

■ワクチンの特性概要■

例えば、ファイザー製の「95%」は、治験データで、未接種者が20人感染発症する時に、接種者が1人感染発症したことを表している。

接種者であっても完全にウイルス感染は防げず、感染予防効果やウイルスに感染したものの未発症者の割合等は評価中。

接種済であっても、全体の接種率が上がる(多くの方が抗体を持つ)までは感染させるかもという周りへの配慮が必須です。